

平成 30 年度生産資材安全確保対策委託事業 研修教材

飼料等の適正製造規範（GMP） ～飼料の安全確保のために～

理解度テスト

第 1 章

設問 1

飼料の流通、給与について、適切なものを 1 つ選んでください。

- ① 有害物質は家畜の尿から排泄（はいせつ）されるので、臓器や乳などの畜産物では有害物質の濃度が薄められることから、安全性に問題はない。
- ② 安全に問題のある飼料が出荷された場合、販売先に引き渡した飼料の回収だけでなく、その飼料を摂取した可能性のある家畜の出荷制限、さらに、その家畜から生産された可能性のある畜産物の全ての回収が必要となることがある。
- ③ 安全な飼料を家畜に給与するためには、フィードチェーンの中でも、家畜に給与する直前の製造段階での安全管理を重点的に行えば十分である。

設問 2

次の a. ～ c.のうち、「飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律」（「飼料安全法」）の目的として適切な組合せを選んでください。

- a. 畜産物の安全
- b. 飼料の安定供給
- c. 安定的な畜産物の生産

- ① a. 及び b.
- ② a. 及び c.
- ③ b. 及び c.

設問 3

次の a.～c.のうち、フィードチェーンに含まれる事業場・事業者として適切な組合せを選んでください。

- a. 飼料原料の製造事業者
- b. 飼料穀物の輸入業者
- c. 家畜を飼養する農家

- ① a. 及び b.
- ② a. 及び c.
- ③ a. b. c.の全て

設問 4

GMP による工程管理として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① 製品の最終検査を強化し、抜き取り数を増やす。
- ② 原料の受入時と製品の出荷時の両方を集中的に管理する。
- ③ 原料の受入から出荷までの全工程を管理する。

設問 5

GMP により期待される効果に関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① これまでのガイドラインにはない新しい管理手法である工程管理を導入することができる。
- ② 製造事業者だけでなく、フィードチェーン全体で取り組むことによって効果的に飼料の安全性を向上させることができる。
- ③ 手順書の整備により、記録を省略することができるため、管理が効率化される。

第 2 章

設問 1

次の記述について、() 内に当てはまる語句の組合せとして適切なものを選んでください。

「(a) とは、家畜・人の健康に悪影響を及ぼす可能性のある物質であり、(b) とは、家畜・人の健康に悪影響を及ぼす可能性とその程度である。」

- ① a. 有害物質 b. ハザード
- ② a. ハザード b. リスク
- ③ a. リスク b. ハザード

設問 2

次の a ~ c について、飼料の GMP において対象となるハザードとして適切な組合せを選んでください。

- a. 抗菌性飼料添加物
- b. 金属片
- c. かび毒

- ① a. 及び b.
- ② a. 及び c.
- ③ a. b. c.の全て

設問 3

ハザードとリスクに関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① ハザードの種類が分かれば、リスクの大小が比較できる。
- ② 飼料におけるハザードは飼料安全法によって種類が決められている。
- ③ 人の健康に悪影響を及ぼす物質も、飼料におけるハザードになる。

設問 4

ハザードに関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① 有害な化学物質や病原微生物を含んでいない異物などは一般的にハザードとみなさない。
- ② 生物学的ハザードは、もともと少量であっても原料や製品中で増殖する場合がある。
- ③ 化学的ハザードは、農薬や飼料添加物など人工的に製造された化学物質である。

設問 5

かび毒に関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① かびが生えているところを取り除けば、かび毒は除去できる。
- ② 同じ産地の同じ農作物であっても、年によってかび毒濃度は異なる。
- ③ 農作物は農場でかび毒産生菌に感染し、輸送・保管段階ではかび毒は増えないことから、輸送・保管段階で管理の必要はない。

設問 6

飼料添加物に関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① 飼料添加物は、同じ畜種であれば添加量の上限は一定である。
- ② 飼料添加物は、家畜の病気の予防を目的として販売、使用することができる。
- ③ 食品添加物であっても、農林水産大臣が指定したもの以外は飼料添加物として製造、販売できない。

設問 7

牛海綿状脳症 (BSE) に関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① BSE はウイルスによって感染するため、飼料用の動物由来たん白質を製造する場合は必ず加熱による殺菌処理を行う必要がある。
- ② 牛だけでなく、羊、山羊に対しても動物性たん白質を給与することは禁止されている。
- ③ 牛用の飼料と豚鶏用の飼料の製造工程は完全に分離する必要があるが、輸送段階では必ずしも分離する必要はない。

設問 8

サルモネラに関する記述として適切ではないものを 1 つ選んでください。

- ① 家畜の病気だけでなく人の食中毒の原因にもなる。
- ② 家畜、野生動物、飼料だけでなく、車両などを介して感染の原因となることもある。
- ③ 加熱後の乾燥した製品に付着した場合、生存しにくい。

設問 9

重金属に関する記述として適切ではないものを 1 つ選んでください。

- ① 重金属は家畜・人にとって有害であり、飼料原料から全て確実に除去する必要がある。
- ② 水銀などを高濃度に摂取することにより健康に悪影響を生じる場合がある。
- ③ 飼料においては、重金属等として、鉛、カドミウム、水銀、ヒ素に基準値が設けられている。

設問 10

農薬に関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① 農作物の収穫後ではなく栽培中に散布された農薬は、畜産物に移行する可能性がない。
- ② 農薬は、飼料の品質低下防止のために使用される。
- ③ 特に輸入業者は、輸出国における農薬の使用に関する情報について確認する必要がある。

設問 11

飼料におけるリスク管理に関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① 製造・輸送・保管中に誤って混入するハザードについて管理されていれば、リスクは十分低減される。
- ② 適切な手順書を定めて工程管理を行うことで、リスクを低減することができる。
- ③ リスクを低減する方法は事業場の形態に関わらず統一すべきである。

第 3 章

設問 1

GMP 導入の手順の流れとして最も適当なものを 1 つ選んでください。

- ① 要求事項の理解 → 事業場の実態把握 → 手順書の作成 → 管理の実施
- ② 手順書の作成 → 要求事項の理解 → 管理の実施 → 事業場の実態把握
- ③ 要求事項の理解 → 手順書の作成 → 事業場の実態把握 → 管理の実施

設問 2

手順書を作成する際に、優先しなくてもよいことを 1 つ選んでください。

- ① 新しく、きれいな手順書を作成すること
- ② 現在、問題なく行っている手順を踏まえて手順書を作成すること
- ③ 作業者に対して教育しやすい手順書を作成すること

設問 3

「衛生管理」に関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① 衛生管理は生物学的ハザードとして最も重要なサルモネラのリスク低減のみを目的としている。
- ② 作業者の衣服や靴、輸送車両が清潔であれば、衛生管理は十分である。
- ③ 踏込み消毒槽による消毒や、人・車両の入出場記録管理は従業員だけでなく、外来者に対しても実施する。

設問 4

「組織および従業員」に関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① 事業場の管理体制を明確にしておくことも要求事項に含まれる。
- ② 教育訓練のメニューは、同一の事業場内では全ての対象者で違いが生じないように留意する必要がある。
- ③ 従業員に対する教育訓練は、OJT（現場の訓練）のみで行うべきである。

設問 5

「施設等の設置及び管理」に関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① 飼料製造事業場においては、製造ラインの設備・機器について管理すればよい。
- ② 施設内の照明、換気の管理については、飼料の GMP に含まれないが、労働衛生管理として重要である。
- ③ 施設・設備の設置や改修ではなく、既存の機器の点検についても本項目に含まれる。

設問 6

「調達する原料の安全確認」に関する記述として適切な組合せを選んでください。

- a. 原料の安全確認の方法には分析だけでなく、GMP の遵守状況の記録を確認するという方法もある。
 - b. 原料を調達する際には、飼料について設定された基準値も踏まえて、契約等を行う。
 - c. 取引関係が長く信頼できる供給元からの原料については、原料規格を作成しなくてよい。
- ① a. 及び b.
 - ② a. 及び c.
 - ③ a.b. c.の全て

設問 7

「異常時対応」に関する記述として適切でないものを 1 つ選んでください。

- ① 異常時対応手順書には、どのような場合が異常時にあたるかを含めて記載する。
- ② 異常とは、不適合品が製造された場合を指す。
- ③ 異常時対応を徹底することにより、不適合品の出荷を未然に防ぐ効果がある。

設問 8

「苦情処理」「回収処理」に関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① 製品クレームへの対応については、販売店や営業担当それぞれのノウハウに基づいて実施する。
- ② 回収処理を行う場合の連絡は、対象となる販売店や顧客に限定して速やかに行う。
- ③ クレームが生じた場合、飼料の規格基準における不適合品の可能性があるか否か判断して対応する。

設問 9

「行政や関係機関との連携」に関する記述として適切な組合せを選んでください。

- a. 安全性に問題がある不適合品の出荷については、事案発生が判明した時点で、速やかに行政に連絡を行う必要がある。
 - b. 安全性に問題がある不適合品の出荷にあたって、事案発生時点で行政に連絡したため、原因究明後の報告書の提出は省略した。
 - c. FAMIC にメールアドレスを登録すると、飼料の安全確保に関する緊急情報などを受け取ることができる。
- ① a. 及び b.
 - ② a. 及び c.
 - ③ a. b. c.の全て

設問 10

「試験検査」に関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① サンプルング方法も含めて試験検査手順書で規定する必要がある。
- ② 試験検査手順書には、検査結果を踏まえた対応までは規定しない
- ③ 試験検査で問題がないことが確認されたサンプルは速やかに廃棄する。

設問 11

抗菌性飼料添加物を含む飼料の製造に関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① 抗菌性飼料添加物は事業場で意図的に添加するものであり、ヒューマンエラーが発生しやすいため、教育訓練が重要である。
- ② 混合器については、信頼できるメーカーから購入することが重要であり、購入後に精度管理を繰り返す必要はない。
- ③ 教育訓練では各従業員が担当している作業の手順のみを集中して実施している。

設問 12

食品残さ利用飼料の製造に関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① 食品として流通しているものは人にとって安全であるので、種類や状態に関わらず飼料として給与した。
- ② 食品として販売される予定のものだったため、内容を確認せずに原料として受け入れた。
- ③ 食品工場の製造工程から排出された副産物について、成分を確認して原料とした。

設問 13

GMP に基づく手順書に関する記述として適切なものを 1 つ選んでください。

- ① GMP 要求事項の理解だけでなく、これを踏まえた手順書を作成しているため、GMP に基づく管理が実施されていると言える。
- ② 手順書の作成後、実際の手順が手順書と異なることが分かった場合、必ず手順自体を改めなければならない。
- ③ 文章の手順書ではなく、写真やイラストを中心にしたマニュアルを手順書にしてもよい。

設問 14

GMP 導入における PDCA サイクルに関する記述として適切でないものを 1 つ選んでください。

- ① PLAN (計画) 段階では、実際に安全な製品を供給するために効果的な手順書を定める。
- ② CHECK (検証) 段階では、手順書が GMP 要求事項を満たしているか確認する。
- ③ ACTION (見直し) 段階では、必要に応じて手順書を見直すとともに、改めて教育訓練を行う。

設問 15

GMP 導入によるメリットに関する記述として適切な組合せを選んでください。

- a. ヒューマンエラーを減らすことができる。
 - b. 製品の品質のばらつきが抑制される。
 - c. 飼料の安全性に関するリスクを完全になくすることができる。
- ① a. 及び b.
 - ② a. 及び c.
 - ③ a. b. c.の全て